

# 成果報告(ポスター)

2017年度助成 (助成期間: 2018年1月1日~2019年12月31日)

タイトル	「主体的に考え、主体的に学ぶ子ども」の育成		
所属機関	いわき市立小名浜東小学校	役職 代表者 連絡先	校長 鈴木 廣美 0246-54-3344



実践の目的:	<p>○「主体的に考え、主体的に学ぶ子ども」を育成するために、①4つの手立てを導入した授業実践を組織的、計画的に行うこと。②授業実践を通して、基本的な授業の流し方等の共通理解を図り、理科の指導力を高めることを主眼として授業に取り組むこと。以上の2点を意識した授業を進め、目指すべき5つの児童像に迫ってきた。</p>
実践の内容:	<p>1 思考力を高める教材開発 ⇨ ①学習機材の購入による単元を見通した教材づくり ②実験キット等の購入による子どもが意欲的に取り組む教材づくり ③ デジタルカメラ、教材提示装置を活用しての教材づくり</p> <p>2 思考力を高める学習活動の構成、支援の工夫 ⇨ ①子どもの思考の流れがわかる構造的な板書の工夫 ②学習の流れや活動の積み上げが分かる学習ノートの工夫</p> <p>3 検証をもとにした言語活動の位置づけ ⇨ ①言語活動の充実(教室示物、廊下など)、②他教科との関連</p> <p>4 思考力を高める人材・素材 ⇨ ① 地域人材・素材の効果的活用</p>
実践の成果とその訴求点:	<p>&lt;目指す5つ児童像&gt;の中から主な3つの児童像についての考察</p> <p>1 「自分なりの問題を持つことができる子」について 自分なりの問題を持たない子が少なくなかったが、疑問を持たせるための活動として①観察②比較③自由試行等を行うことによって自分の考えを持てる子が増えてきた。</p> <p>2 「問題を解決するための予想や方法を考えることができる子」について 個人差が大きいが、ペアによる意見交換や全体での話し合いにより、特に下位の児童でも考えを持てるようになってきた。また、そのことが、その後の学習の意欲につながってきている。しかし、考えの根拠となる部分の記述が不十分であるので、今後の課題として考える必要がある。</p> <p>3 「自分の考えた予想や方法で検証(調査、観察、実験など)ができる子」について 自分なりの予想や考えを持つことが、授業で検証する意欲に結びついている。また、同じ考えの子ども同士で協力して活動することも楽しさにつながり、集中して検証に取り組む子どもが増えている。</p>

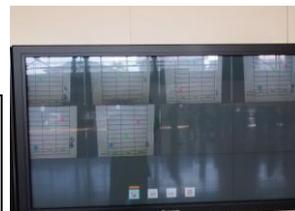
学校・団体名 いわき市立小名浜東小学校

**「主体的に考え、主体的に学ぶ子ども」**を育成するために、以下の4つの手立てを導入した授業実践を組織的、計画的に行い、授業実践を通して、基本的な授業の流し方等の共通理解を図り、理科に対する興味関心を高め、知識理解を深めることを主眼として実践を進めてきた。

### 1 思考力を高める教材開発と授業づくり

(1) 単元を見通し、体験活動を重視した自作教材づくり

⇒ 学習計画を立て児童が教材を自作することにより、学習に対する興味関心を高めると共に、単元の見通しを持ち学習を進めることができた。また、自作教材を使用した実験を通し実体験することにより、さらに確かな理解を深めることができた。



(2) 実験キット等の活用による子どもが意欲的に取り組む授業づくり

⇒ 流れる水のはたらきの実験キットを活用し、水が土をどのように削り運んでいくか、目視し体験する授業を行った。子どもたちは、実験結果に強い興味を示し意欲的に学習に取り組むことができた。



(3) デジタルカメラ、教材提示装置を活用しての授業づくり

⇒ 顕微鏡での観察やグループ発表での活用を図った。図よりも写真、写真よりも動画で示すことで児童のもつイメージが豊かになったり、理解しやすかったり、追究が深まったりした。また、個人やグループの記録や結果をマルチモニターに提示し、他の記録や結果と比較・検討し、児童自らが結果を導き出す授業展開に心がけた。

### 2 思考力を高める学習活動の構成、支援の工夫

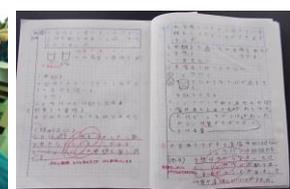
(1) 子どもの思考の流れがわかる構造的な板書の工夫

⇒ 授業の板書を画像に残し、掲示をすることにより、児童の学習に対する振り返りを促すと共に、他学級児童や他教諭に学習の共有を図ってきた。



(2) 学習の流れや活動の積み上げが分かる学習ノートの工夫

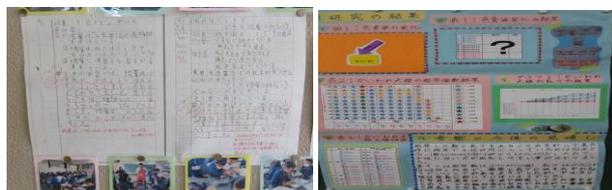
⇒ 模範となるノートを掲示し、自己の学習やノートづくりに生かせるようにした。



### 3 言語活動の充実

(1) 言語活動の充実(教室、掲示物、廊下など)

⇒ 理科関係の資料、自由研究や授業のノート等を展示し、興味関心を高めてきた。実験結果やまとめを自らの言葉で表記させたり、実験結果についてグループで話し合わせたりさせ、言語活動の充実を図った。



(2) 他教科との関連 ⇒ 総合や生活科、社会科との関連を考慮し、栽培活動の充実に努めた。



### 4 地域人材・素材の効果的活用



(1) 地域人材・素材の効果的活用 ⇒ 日本理科教育振興協会や教材会社の外部講師とのT・Tで4年生の「金属、水、空気と温度」、5年生の「電流の働き」、「流れる水のはたらき」、6年生の「大地のつくりと変化」等の授業を行い、理科学習に対する興味関心が高まったり、より専門的な知識理解が深まったりするといった成果を上げた。今後も、各学年の授業で人材の活用、連携を図っていきたい。